

令和元年度第2回

札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会

会 議 録

1 日時

令和2年3月24日（火）午後3時開会

2 場所

札幌市役所本庁舎 18階 第4常任委員会会議室

3 出席者

(1) 委員

太田会長、大沼副会長、増渕委員、小路委員、野崎委員、江田委員、隅田委員、内山委員、坂本委員、西塚委員、宮森委員

(2) 事務局

大平環境都市推進部長、高松環境活動推進担当課長、阿部環境教育担当係長、沼倉推進係員、皆川指導主事

4 議事

(1) 令和元年度環境教育関係事業の実施結果及び今後の予定について

(2) その他

5 議事内容

以下のとおり。

なお、内容については、当日の会議出席者に確認済み。

1. 開 会

○太田会長 皆さん、こんにちは。

コロナウイルス関係で大変なさなか、お集まりいただきまして、ありがとうございます。最前線におられる方ばかりではないかと危惧しておりましたが、予定された方々がそろったようですので、定刻より少し前ですが、ただいまから令和元年度第2回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を開催したいと思います。

まず、事務局から出席状況などの連絡事項をお願いいたします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 環境教育担当係長の阿部です。よろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼす中、また、年度末の大変お忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。

委員の出席状況ですが、吉田委員と荒山委員から欠席のご連絡をいただいております。急遽、福岡委員も欠席ということになりましたので、本日のご出席は11名ということで、委員数14名の過半数に達していますことから、推進委員会設置要綱第5条第2項の規定によりまして、本委員会が成立していることをご報告いたします。

また、本日は、オブザーバーといたしまして、教育委員会教育課程担当課から皆川企画担当係長が出席しております。

なお、大平環境都市推進部長につきましては、他の用務のため、遅参することになっております。

以上でございます。

○事務局（皆川企画担当係長） 教育委員会教育課程担当課の皆川と申します。

日ごろより学校教育の推進及び学校教育の支援にお力添えいただいておりますことに本日に感謝を申し上げます。本日もよろしくお願いいたします。

2. 議 事

○太田会長 それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議事は、令和元年度環境教育関係事業の実施結果及び今後の予定についてでございます。

委員の皆様には、事務局の説明の後にご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） まず、資料の確認をさせていただきます。

本日お配りしました資料は、次第、座席表がありまして、資料1の委員名簿、資料2の環境教育関係事業について、資料3の環境教育ワークショップについて（案）、そのほか、参考資料といたしまして、札幌市環境副教材及び教師用手引書ということで、1・2年生

用、3・4年生用、5・6年生用の3種類をそれぞれご用意しております。それから、令和元年度「環境教育へのクリック募金」事業報告書、エコライフレポートの冬休み版、校外学習用バス貸出利用校の紹介（一部）、「環境保全アドバイザー・環境教育リーダー講師派遣」パンフレット、「さっぽろこども環境コンテスト2019」実施報告書、環境教育・環境学習ガイドとなっております。

すべておそろいでしょうか。不足等がある場合は事務局までお申し付けください。

それでは、今年度の環境教育関係事業の実施結果や今後の予定などについて説明させていただきます。

各事業の概要につきましては、前回会議で既にご説明させていただいておりますことから、本日の前半につきましては、資料2に基づきまして、主な事業の実施結果や今後の予定を説明させていただきます。また、後半につきましては、資料3に基づきまして、来年度開催する環境教育ワークショップの実施案について説明させていただき、ご意見やご助言をいただく予定です。

まず、主な事業の実施結果や今後の予定についてなどについてご説明させていただきます。

お手元に配付の資料2の2ページをご覧ください。

まず、2ページ上段のウですが、環境副教材・教師用手引書についてです。

参考資料として、来年度版の環境副教材と教師用手引書を配付しております。

例年、市立小学校の新1・3・5年生の全児童に環境副教材を配付し、それぞれ2年にわたって利用させていただいており、あわせて、教師用手引書も配付させていただいております。より利用しやすいものとするために、教員によるワーキンググループを組織しまして、今年度も改訂いたしました。

来年度配付版は、来年度に使用する教科書が変更されることに伴いまして、教師用手引書に関連ページや単元名を記載しているのですが、新しい教科書の内容に対応させる必要があったため、この修正を重点的に行いました。

次に、2ページ中段をご覧ください。

エ、環境教育へのクリック募金についてです。

参考資料として、令和元年度「環境教育へのクリック募金」事業報告書を配付しております。

環境教育へのクリック募金は、インターネットを活用した環境教育の支援制度であり、環境プラザのホームページ上で、現在は8社ですが、協力企業の環境活動を紹介し、閲覧数に応じた金額をご寄附いただき、その寄附を原資に環境教育教材を購入、寄贈しております。今年度は、小中学校計38校に、手回し発電機、ガス検知管、トマトや枝豆の野菜苗などを寄贈しました。

次に、2ページの下段をご覧ください。

オのエコライフレポートについてです。

参考資料として、取り組み結果とともに、エコライフレポートの用紙3種類と認定証の見本を配付しており、6枚つづりにしています。

エコライフレポートは、小・中学生に家庭のエコリーダーとして環境配慮行動を意識し、実践してもらうために実施しており、夏休みと冬休み前に全市立小中学校の児童生徒に用紙を配付して、身近なエコ行動への取り組みを促しています。

3ページの表にありますとおり、今年度の冬休みエコライフレポートの取組率は、小学生で95%、中学生で90%という結果となり、小学生・中学生全体では93.4%でした。

夏休み版では、SDGsについて知ってもらうため、SDGsとは何か、自分たちとどのような関係があるのかについて掲載し、「SDGsマスターになろう」と呼びかけました。冬休み版は、また違った視点で、海洋プラスチックごみやマイクロプラスチック問題について掲載し、自分たちに何ができるか考えていただき、SDGsと関連づける内容としました。

なお、今回の冬休み版を学校に送付した際、ある学校から、教員の負担に比べると、目立った効果が得られないと感じるため、今回は取り組まないこととしたというご連絡をいただいたところです。このようなご意見をいただいたことから、より良い取り組みとしていくためにも、今後、内容の見直し等を含めまして検討すべき課題であると認識したところでございます。

次に、4ページの上段をご覧ください。

カの校外学習用バス貸し出しについてです。

参考資料として、校外学習用バス貸出利用校の紹介（一部）を配付しております。

環境に関する体験学習の場を提供するため、市内小・中学校を対象として校外学習用バスの貸し出しを行っています。今年度につきましても、バスの手配が困難な夏季の観光シーズンを避けて実施しており、貸し出し期間を10月14日から12月13日までとして、46校が利用いたしました。

4ページの表にあるとおり、主な見学場所は、アイヌ文化交流センター、白石清掃工場、豊平川さけ科学館などでした。

次に、5ページ中段をご覧ください。

アの環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣についてです。

リーダーについて、今年度当初の登録数は29人でしたが、新規募集を行い、2名の増員をしました。リーダーの高齢化のため、スキルを継承しながら世代交代する必要があることや、複数のリーダー派遣が必要となる川での活動や幼稚園、保育園におけるリーダーの需要が高まっており、対応可能なリーダーが不足していることから、来年度につきましても新規の募集をしていきたいと考えております。

6ページの表にあるとおり、今年度2月末現在の実績ですけれども、環境保全アドバイザーにつきましても、派遣件数は39件、参加人数は1,764人、環境教育リーダーの

派遣件数は５７件、参加人数は１，７３６人となっており、環境教育リーダーの派遣件数が大幅に減ってしまっております。平成３０年度から、１団体当たりの年間の利用回数を３回から２回までに減らすことで、新たに利用する団体数を増やす取り組みを進めていたのですが、新規の団体数が伸び悩みまして、利用件数が減少してしまう主な要因となってしまいました。

参考資料として配付している環境保全アドバイザー・環境教育リーダー講師派遣のパンフレットをご覧ください。

パンフレットを開きますと、環境教育リーダー派遣の活動内容を紹介する用紙が挟まっておりますが、利用団体の増加を狙いまして、来年度の案内用として新たに作成したものとなっております。環境教育リーダーが支援できる活動を具体的に示すことで、こういった活動を支援してもらえのだと知っていただいて、身近な制度だと感じてもらうことで、新たに利用する団体を増加させていきたいと考えております。

また、例年、暖かい時期に行う川の生き物観察が人気ですが、冬の樹木の観察や雪の観察など、冬期間に支援できる活動や、地球温暖化やエネルギーなどを学ぶ参加体験型プログラム、木の実や昆虫の標本を使った自然解説など、室内において支援できる活動もたくさんあることを周知し、これまで利用が少なかった時期に利用する団体を増加させていきたいと考えております。

次に、８ページ下段をご覧ください。

ウのさっぽろこども環境コンテストについてです。

参考資料として、「さっぽろこども環境コンテスト２０１９」実施報告書を配付しております。

昨年１２月７日に、小・中学生の環境活動を発表する、さっぽろこども環境コンテスト２０１９を開催し、学校外団体の部３団体、小学生の部２校、中学生の部６校の合計１１団体に参加していただきましたほか、環境に関する教育課程研究実践校の札幌大通高等学校に特別発表をしていただきました。

当日は、大沼副会長には審査委員長に、坂本委員には審査員にご就任いただきました。改めまして、長時間にわたり、ありがとうございました。

また、各部の最優秀賞を受賞した栄西児童会館タッピーファーム、西白石小学校、屯田北中学校科学部の３団体には、１月２２日に市役所本庁舎で開催した市長報告会におきまして、直接、市長へ発表内容を伝えていただきました。

次に、９ページ下段をご覧ください。

アの環境プラザホームページ等についてです。

下の表のとおり、今年度２月末現在におけるホームページのアクセス件数は、環境プラザホームページが７万３５６件、キッズページが２，５１９件で、減少傾向にあります。

昨年３月に開催しました平成３０年度第３回会議において、今の若い方、大学生や高校生は、情報はほぼスマートフォンで見えており、パソコンではホームページをあまり見ないの

で、ホームページをスマートフォンでも見やすいようにつくり変えるレスポンス対応を行うことが必要であり、この対応をしていないとホームページ検索の上位にも上がってこないというご意見を頂戴していました。

このたび、レスポンス対応も含めまして、利用しやすいホームページを目指し改修することとなりました。まだ確実でないですが、4月1日からリニューアルしたホームページを公開できるよう準備を進めているところでございます。

本日、改修後のホームページをイメージしていただけるような資料等をご用意できず大変申し訳ありませんが、4月1日以降にアクセスしていただき、ご覧いただきますようお願いいたします。

最後に、10ページ中段をご覧ください。

「環境教育・環境学習ガイド」の作成についてです。

市役所内で行われている環境教育関係事業を集約し、掲載した「環境教育・環境学習ガイド」を今年度新たに作成しました。

市民へ広報、情報提供するものとして活用することにより、市民が環境教育関係事業に関する情報を集めやすくするとともに、各事業への参加などを促しまして、環境教育、環境学習のさらなる推進を図っていきたいと考えております。

参考にお配りしている「環境教育・環境学習ガイド」をご覧ください。

1ページには、札幌市環境教育・環境学習基本方針の概要について記載しています。

2ページから5ページにかけては、私ども環境教育担当が実施している主な事業等の概要を掲載しており、5ページ下段には本推進委員会について掲載しております。

6ページから12ページにかけては、札幌市が取り組む環境教育・環境学習の一覧となっております。各部局が実施する環境教育・環境学習に関する事業を、基本方針で定めている、札幌市が主体となって推進する四つの取り組みである「学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」「『環境人材』の育成」「環境教育・環境学習の場と機会の充実」「普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」に分類し、それぞれ掲載しております。

13ページから14ページにかけましては、札幌市内の主な環境関連施設を掲載しております。

なお、今後、このガイドは、毎年度、改訂しまして掲載情報を更新していくなど、より活用しやすいものとしていきたいと考えております。

主な事業の実施結果や今後の予定についての説明は以上です。

○太田会長 今、係長から説明がありました資料2は全体で10ページございますが、まず、これについてご意見を頂戴したいと思います。

時間のめどとしては16時50分までの予定となっておりますが、昨今の状況から、長時間の会議は避けるようにと、私の職場でも言われておりますので、できるだけ早く終わりたいと思っております。

それでは、資料２の説明について、ご意見を伺った後に、方向性とか、次年度に向けての助言というように分けてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、資料２の１０ページ全体を通して、主な事業の実施結果についてご意見を伺いたいと思います。

○宮森委員 ６ページの派遣実績についてですが、環境教育リーダーは同じ団体から２件までという制限を設けたことで少なくなったというご説明が先ほどありました。

環境保全アドバイザーの派遣件数はそれほど下がってはいないものの、参加人数が半分くらいになっているというのは何か原因が考えられますか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 環境教育リーダーですと、例えば、川の活動の水生生物の観察などは、小さなお子さんに対応することが多く、環境教育リーダー１人につき１０人程度しか対応ができないのですが、環境保全アドバイザーですと、ごみに関する講義や地球温暖化に関する講義などをやっていただくことが多くなっており、１回あたりの参加人数が多くなっていると考えております。

○宮森委員 何年か前と比べると参加人数が半分くらいに減っているのは、何か原因があるのでしょうか。

○太田会長 参加人数の減少についてですね。

○事務局（阿部環境教育担当係長） その原因は具体的には把握していません。

○太田会長 環境保全アドバイザーの参加人数は、５年前は３，０４３人だったのが、１，７６４人と下がっているのですね。要するに、件数はそれほど減少していないのけれども、参加人数がかなりの減少を感じられるということです。その原因について、何か考えられることはございますか。

○事務局（沼倉係員） 推測ではあるのですが、先ほど申し上げたように、環境保全アドバイザーは、講義とか、一堂に大人数ですることが多く、何百人という会が一度あるだけで実績の人数が大きく変わりますので、そういうことが起因しているのではないかと思います。

ただ、減少傾向にあるので、今後、そこは原因を把握して、利用人数の増加に努めたいと思っております。

○太田会長 宮森委員はよく見ていらっしゃると思います。本当にそのようになっていますね。平成２８年度を境に、件数はそんなに変わらないのに、参加人数は半分になったというのは不思議な現象です。これは、ちょっと探ってみていただいたほうが良いかもしれませんね。次年度以降の参考になるかもしれません。

ほかにございますか。

○坂本委員 質問ですが、ＳＤＧｓマスターの認定とかクイズというのは、環境教育関係テーマで、教育に特化した内容になっていると思いますが、ＳＤＧｓは、教育だったり、福祉だったり、ジェンダーであったり、いろいろなテーマを取り扱っていると思います。

これは、札幌市のほかの部局でも、似たようなことをやっていたり、違う事業でやって

いらっしゃるのでしょうか。

○太田会長 資料2の2ページですね。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 環境活動推進担当課長の高松です。よろしくお願いします。

今の坂本委員のご質問ですが、小学生、中学生は、生活に一番身近なところというと、環境の問題となるので、環境を切り口に情報発信しております。ほかの部局でも、SDGsについて子ども向けに何かをやっているかとなると、子どもを対象とした事業を持っているところであればそういったこともあろうかと思えますけれども、すべては掌握しておりません。

また、皆川係長に伺いますが、教育委員会では小学生や中学生にもSDGsが来年度、再来年度には教科書に入ってくるとお聞きしていますけれども、何か情報はありますか。
○事務局（皆川企画担当係長） 児童生徒にSDGsという言葉自体を教えるということではなく、持続可能な社会をどうつくっていくのか、つくり手としてどんなことを学習していったら良いのか、そんなことを大切にしていこうということが今まで以上に重視されるようになってきたという流れにあると思っております。

教育委員会としては、資料2の中にも触れられていますけれども、札幌らしい特色ある学校教育推進事業の中で、環境について全学校、全幼稚園で取り組んでいることから、学校や幼稚園には、SDGsの視点を活用した取り組みを進めていくことができるのではないかとお話をしているところです。

実際のところは、各学校においては、研究推進校の報告書や、数校のホームページにおける情報などによると、小学校、中学校、高校という各学校段階においてSDGsに関係するいろいろな取り組みは既に行われています。そういった各校の取り組みを発信、共有したり、取り組みの成果についてもう少し整理する、例えば、幼稚園から高校までのつながりを意識して、共通点や発達段階に応じた違い等の面から学習内容や学習活動について整理することなどにより、さらに学習効果が上がるのではないかと考えております。

札幌らしい特色ある学校教育推進事業に関しては、昨年度から、「幼・小・中・高のつながりを意識する視点」と、「発信」という二つを柱として取り組みについてリニューアルしていきませんかというお話をさせていただいているところですので、そういった柱を踏まえて、取り組みが広がりを持ったり、一層の深まりを持ったりすることにつなげていけたら良いなと思っているところです。

○太田会長 SDGsの児童生徒向けのものがないかということで、今、環境局と教育委員会からお話がありました。そのほかに、何か情報をお持ちの方はありますか。

○野崎委員 宮の森小学校教頭の野崎です。

実は、SDGsの関係ということで、コロナの影響で中止になってしまったのですが、本校では、次年度、市教委が事業にしていきたいという思惑から、教育委員会の給食の関係者から依頼があり、フェアトレードの授業を今年の3月に実施しようとしてました。休

校になって、中止になってしまい、冬休みのときから準備した本校の若い先生は本当にがっかりしていたのですが、そういったこともやっていますし、授業に関わっていろいろな取り組みもしています。個々の単元、教科、領域の中でSDGsに関わるようなものにはそれぞれ取り組みます。ただ、大枠で、これがSDGsだという概念を子どもたちに教えることはしておりません。

札幌市はフェアトレードタウンに認定されていますが、授業の中でも取り組みをしようということで、今後より系統だっていくのかなと思って話を聞きました。

また、エコライフレポートの成果が見えなくて取り組まないという話がどこかの学校であったようですが、もしかしたら、先生たちの啓発の仕方がより重要になっているのかなと思います。私たちは、10年以上ずっとやっていて、当たり前のように今やっているということを前の会議でも話したと思います。私どもの学校は先生方も子どもたちもしっかり取り組んでくれているのだろーと思います、その意義ですね。これをやった後にどうなっていくかですね。先生たちにもその意義がより伝わると良いのかなと思っております。

○太田会長 今、大事な話を二ついただきました。現在の学校の取り組みと、今後さらに発展させていくにはどうしたら良いかというお話でした。

ほかに、児童生徒向けでということで情報をお持ちの方がおられましたら、参考までにお聞かせ願いたいです。

○宮森委員 実は、児童生徒向けではないのですが、私は、毎年12月に保育科がある女子短大で環境講座を実施しています。そのときに、小学校と中学校でエコライフレポートに取り組みましたという学生の発言があり、継続することの成果を感じました。エコライフレポートは、これからも続けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○太田会長 ありがとうございます。良いお話を聞かせていただきました。

企業のほうでも、子どもたち向けにというものはございますか。

○西塚委員 当社も、SDGsという切り口ではございませんが、資料の中にもあるように、石狩にエネルギー工場がありまして、主に小学生を対象に、いろいろな実験や展示を通じて科学的な内容も含めエネルギーにまつわる話をしていますが、そこで、エコの大切さ、リサイクルが大事だということなど包括的にお伝えしています。それが結果的にどのSDGsのアイコンに結びつくかまではできていませんが、前の会議でも申し上げたとおり、自分たちの行っていること自体をSDGsのアイコンに当てはめることを目的にするのではなく、結果的に環境問題を中心に世の中のどういうところにメリットがもたらされているか、皆さんの生活のこういうことに繋がっているということを伝えることは意識してお話しております。

ご質問のお答えになっているか分かりませんが、以上です。

○太田会長 石狩湾新港の見学会がありますよね。ありがとうございました。

坂本委員は、このようなことをされているということがありますか。

○坂本委員 私たちのところは、特に子どもをターゲットにはしていないですが、SDG

s が国連や途上国の課題であって、自分たちが直接関わることはないと理解されている方も少なくないと思うので、世界レベルの目標を地域ないし家庭や学校、会社というように、自分たちの足元に目を向けてこの目標を理解するというようなことをワークショップでやっております。大人でも難しいと思うのですが、子どもたちが地球の裏側まで行くと、こんなふうに課題を生んだり、解決したりすることになるという視点を持てたら良いと思います。大人は会社や行政の枠の中で考えるようになってしまっていますが、子どもたちだったら発想が柔軟だと思うので、包括的に考えられると思って質問しました。

○太田会長 先ほど、坂本委員のお話しの趣旨がにじみ出ているようなパンフレットを頂戴いたしまして、読ませていただきました。ありがとうございました。

それでは、切りかえまして、ほかにご意見、ご質問はございますか。

○江田委員 私の娘は中学を卒業したところなのですが、最後は、途中から授業がなくなってしまったので、いろいろなものがまとまって配られてきたのですが、その中にSDGs全般についてまとめたとても良い冊子が入っていました。これは、これから使うところだったのかよく分からないのですが、大学の先生などが監修されたものです。それは、特に環境だけに限ったものではなくて、全てについて網羅されております。

○太田会長 今、多角的なご意見があったと思います。いろいろな広がりや継続性が伝わってまいりましたが、今後という視点からの野崎委員からのお話もございました。よろしくお願ひしたいと思います。

ほかにございますか。

○内山委員 私は、大きく分けて二つありますが、環境教育・環境学習ガイドの後半の部分です。以前は環境局の守備範囲でご報告いただいていたと思いますが、全庁的に調べて、ご報告いただいたということで、非常に良いことかと思っております。

これは補足ですが、北海道では道内の環境教育・環境学習に関する取り組みをまとめ報告していますが、件数が倍増に近くなるくらい札幌市の取り組みが多かったという報告を受けております。

申し上げたいこととしては、後半の6ページ以降を俯瞰してみると、札幌市として環境基本計画を受けて、どのように普及啓発をしているか見えてくると思うのです。そうすると、緑化であるとか、自然系であるとか、循環型社会の推進であるとか、そういったものはある程度やっていると思うのですけれども、CO₂の分野ごとの削減についてどういう普及啓発をしているかということを考えると、例えば交通分野の取り組みはあまり出てこないのかなという気がしています。さわやかノーカーデーはまだありますよね。また、環境局でエコドライブはやっていなかったでしょうか。その事業名が見当たらなかったのも、まだ漏れているのかと思います。

そのほかにも、小学校等も巻き込んで、自ら交通分野で行動変容を考えるモビリティマネジメントという取り組みもやっていると思いますが、まだまだ集め漏れがあるのかなという気がしています。

こういうものを見ると、札幌市の普及啓発でどこの部分が足りないのかということが分かってくると思いますので、ぜひ役立てていただけたらと思います。

また、10ページのイの下から3行目で、「環境☆ナビ北海」となっていますが、これ「環境☆ナビ北海道」ですので、「道」を入れておいてください。

○太田会長 違う切り口から、良い話をお聞かせいただきました。

後のほうでもありましたけれども、今後の方向性として、自然系ばかりではなくて、社会系で漏れているところがあるかもしれないというお話がありましたので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

ほかにございますか。

○江田委員 環境教育・環境学習ガイドについてですが、今までにこういうまとまったものがなかったので、とても良かったと思っています。これは、とても良いので、ぜひいろいろな方に活用していただきたいのですが、この活用方法をどのようにされるのか、お伺いしたいと思います。

○太田会長 これだけすばらしいものが集約されているので、その活用方法についてというご意見だったと思います。

○事務局（阿部環境教育担当係長） まず、ホームページにおいて公開して、皆さんに活用していただきたいと思っております。

また、冊子を区役所や小学校、中学校にもお配りいたしますし、区民センターなどにもお配りをして、いろいろな方に活用していただけるように考えております。

○太田会長 江田委員から、こういうところにもというお話はありますか。

○江田委員 ずっと考えていたのですが、今出てきたところくらいしか私も思いつかないので、もしどなたかから良い案があればと思っていました。

○太田会長 どうしても、札幌市の関係機関が中心になると思いますが、こういうところでもご紹介したらということですね。ホームページということでしょうけれども、データ的に本当にすばらしいですね。

ほかにございませんか。

○小路委員 さまざまな取り組みをどうもありがとうございます。

一つ気になる点は、環境人材の育成という部分です。環境人材の育成というのは、子どもたちに特化して見ると、環境にいろいろ興味を持った子どもたちが環境人材・環境リーダーとして育っていくことはこれからの環境教育にとってものすごく大きな力を発揮すると思うのです。以前もそういうことが話題になって、子どもたちをどうやって環境リーダーに結びつけていくのかということで、学生サポーター制度などを設定したような気がします。その学生サポーター制度の活用状況というか、今はどのくらいの学生サポーターがいて、どんな活動をしているのか、それが環境人材育成に結びついているのかというあたりはいかがでしょうか。

○太田会長 すぐに分かりますか。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 前回もお話ししたかと思うのですが、現在、学生サポーターの登録は1名です。ですから、その方がサポーターとして何か活動しているという実態もあまりないところです。しかし、リーダー的な存在ということであれば、前回、1回目のときに札幌市の中高生の活動でこんなものがあるということで、環境のことや、SDGsのことや、フェアトレードのことも学生が自らの思いで始めたという活動をご紹介させていただきました。そういう子たちが自分たちの活動をどんどん広げていって、それを見ることによって、ほかの学生たちに波及させることもあると思いますし、まさに彼、彼女たちがリーダー的な存在なのかと思い、札幌市としても、そういう若者たちの支援をし、活動の場を設けていきたいと思っております。

○小路委員 偶発的にいろいろと学びに興味を持って、環境に特化した学びをしたいという子どもたちもいると思うのです。しかし、それが長続きするためには、偶発的な子どもの育ちを待つのではなくて、何か組織的な取り組みが必要だと思います。そういうことについて、エコクラブや学生サポーター制度をうまく活用しながらやっていくことで、子どもたちの環境教育の芽がいろいろなところで花咲くのかなと思っています。できたら、ぜひともそういうシステムの部分を少しつくってもらえたらありがたいです。

別件で、本当にこれは素晴らしいと思うのはさっぽろこども環境コンテストです。ずっと継続していて、この中に出てくる子どもたちの環境への取り組みはすごく目を見張るものがあるなと思っています。

ただ、これからのことを考えていくと、今年は参加する小学校が減りましたね。中学校に関しては、同じような中学が毎年出ていますね。そうすると、取り組みが少し閉鎖的になってくるのかなと感じますので、そこを広げていくための手だてが必要かと思うのです。

それについて、現在、何か考えていることがありましたらお聞かせいただきたいと思います。

○太田会長 大沼副会長が委員長として出席されていますので、何かございますか。

○大沼副会長 今の小路委員の発言に関係するところで言うと、リーダーを育てるとするのは、たまたまやる気のある人が出てきたということではなく、小路委員はシステム的とおっしゃいましたが、具体的にどうしたら良いのかというのは非常に難しいと思うのですが、そのつくり方は、学校教育の仕組み全体とか社会の仕組み全体に関わってきてしまいます。環境教育でできるところ、あるいは、今日、せっかく教育委員会の方に来ていただいているので、環境に限らず、突飛な人が出てきたときに、日本的に出る杭は打たれるのではなくて、逆に持ち上げ過ぎるのでもなく、うまく自然な形で育てるということはどうやったらできるのか大き過ぎる課題です。ですから、こういう一つの委員会だけで何とかできるとは思いますが、こういう委員会からも、また、ほかのところでも、ぜひぜひいろいろなところで、特に教育方面の方々にいろいろとお知恵をいただいたり、事あるごとに議論していただけると良いかなと思っております。

こども環境コンテストについては、全く同じ感想を持っています。発表は、感動するぐ

らい、心揺さぶられるぐらいすごいのですが、残念なことに同じような顔ぶれになりつつありまして、なかなか新しく入ってこないということがあります。雑談の中では、予選からやらなければいけないぐらい裾野が広がってほしいということもお話ししていました。

実は、先ほどのリーダーの育成の両輪として、裾野を広げるということもすごく大事なことです。裾野が広がらないと山のとっぺんも広がりませんので、これは後で質問させていただこうと思っていたのですが、こちらの副教材も、教科書の改訂に合わせて、教科書とのひもづけを非常に丁寧にやっただいて、これはいろいろな小学校で活用していただいていると伺っていますが、先生の濃淡、学校ごとの濃淡があると思っています。恐らく、一つの学校の中でも、やる気のある児童からやる気のない児童まで、やる気のある先生からやる気のない先生までといろいろな濃淡がある中で、これくらいまではやって欲しいという水準があり、先生方の負担が大きいのです。見ていて痛々しいくらい、負担が大変な中をやっただいているのもよく分かります。それでも、底上げするというものを同時に欲しいと思っております。そういうものも含めて俯瞰できるような、また、底上げというのは、案外、見えにくいのです。そこをどのように見える形につくっていくのか。学校の先生方や教育委員会のお話も伺えたらと思っております。

○太田会長 ありがとうございます。裾野を広げるという意味では、各学校あるいは現場での努力目標として大事ではないかということです。

ほかにありませんか。

○増渕委員 今の裾野を広げるというお話ともつながっていくと思っていましたが、資料2の5ページの下から2行目で、先ほど、幼稚園や保育園における自然体験会の需要が増加しているというご説明をいただいて、これはすごく興味深いと思って伺っていました。

こんなふうに、本当に幼いころから水生生物観察会をして、本当に生の自然にそのまま触れていく体験をするところが増えているというのは、どんな要望からこのようにされているのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思いました。本当に幼いころから体験に近づいていけるというか、機会が広がっていくというか、そのあたりを教えていただきたいと思っていました。

○太田会長 事務局、いかがですか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 以前、環境教育リーダー派遣の関係で、申し込みのあった保育園の川の活動を南区の中の沢川へ行ってみましたが、保育園の先生方がお子さんに自然体験をさせたいという話をされていましたが、リーダーも一緒にいるのですが、保育園の先生方も水にぬれながら、お子さんと一緒に水生生物をとって観察したり、植物も含めてですが、こういうものがあるという話を、大人も一緒になって取り組んでいました。そのときに先生方もおっしゃっていましたが、小学校にあがる前からこういう自然体験をさせることは非常に大切で、保育園として積極的に取り組むようにしていますということでした。

先ほど、リーダーの派遣回数は2回までと申し上げますけれども、1回活動して、

また同じ年度に2回目の利用をしていただきました。

○増渕委員 今、小規模の保育所がかなり開設されていますが、園庭のないところがすごく多いのです。そういう園の子どもたちがこういうところに参加したいと思うということはあるのでしょうか。

保育環境があまり良くないですね。子どもに大きな経験をさせることができるというのは本当に良いと思います。園庭のないところでの子どもの育ちは本当に心配だと思っていまして、そういうところに援助できるような形なのかと思っていました。

○太田会長 今、企業型とか、公園がそばにあれば良いとか、いろいろな保育園のタイプがあります。その分類の把握はされていませんね。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 申し訳ありませんが、把握しておりません。

○太田会長 今後の要望として承ります。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 今のお話を伺いまして、そういう要望があるのであれば、そういうところに環境教育リーダー派遣というプログラムがあるという情報を伝えると、リーダーを使っただけの機会が増える可能性もある大変うれしい情報でした。保育園、幼稚園のどちらが多いのでしょうか。

○増渕委員 幼稚園は逆に広いですね。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 私設の保育園ですね。

○増渕委員 建物の中だけというのがあちこちに随分ありますね。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 多分、先生の数も少なかったりするのですよね。

○増渕委員 そうかもしれません。環境としても、かなりぎりぎりのところでやっているところが多いと思います。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 分かりました。貴重なご意見をありがとうございます。

○太田会長 それでは、今の話もそうですけれども、方向性やご助言のお話しに入ってきていますので、最初にお話ししましたように、次年度以降に向けた方向性やアドバイス等がございましたら出していただきたいと思います。

○隅田委員 ここをこうしたらというものがすぐに出てくるわけではないのですが、環境副教材を1、2年生向け、3、4年生向け、5、6年生向けと教師用手引ということで改訂されていますけれども、すごく立派な冊子でした。これは使われているようですと大沼副会長もおっしゃっていましたけれども、うちの子どもたちの状況だけ見ると、学校の先生も忙しくて、これを教材として使うというところまでされていなくて、持って帰ってきて終わりということもたびたびあったので、ここに参加されている野崎委員の学校では活用されているのかもしれないですけども、ぜひほかの学校でもうまく使えるように、そのために手引があるのだと思いますが、実際に活用してほしいと思いました。どれくらい活用されているかを把握してみるということもあって良いと思いました。

それから、裾野を広げるというところで、さっぽろこども環境コンテストの参加校が毎

回決まっているという話がありました。前にも言ったと思いますが、私の子どもが出た中学校では、中学校の1学年での総合学習の時間に、環境について1年間かけてやって、最後に発表するということをしています。そういう取り組みをしている中学校はほかにもあると思うので、そういう学校が環境コンテストに参加すれば良いのではないかと思います。

また、環境教育・環境学習ガイドにたくさんの事業が載っていますが、今後、どの事業がどれだけ使われたということも載せても良いと思いました。

○太田会長 ありがとうございます。貴重なアドバイスをいただきました。

江田委員、お願いします。

○江田委員 今の話と重なるのですが、資料3にもあるとおり、環境教育ワークショップが開催されるということで、これに参加するのは市内の小・中学生で、その企画から高校生、大学生も入ると考えておられるということなので、ぜひこれを成功していただいたら、底上げにつながるのではないかと思います。そのやり方がとても難しいと思います。ここにも特定の人しか参加しないのかなと感じますので、幅広い参加があると良いと思います。

○太田会長 資料3につきましては、また後で説明いただくことになっております。

○内山委員 こども環境コンテストについて、ご説明にあったかもしれないのですが、応募してきた団体は、皆さん、何かしらの賞が当たっているんですね。

個別の団体にその審査内容からのフィードバックはされているのですか。

○事務局（沼倉係員） コンテストに出場いただいた団体には、アルバムという形で、個別に当日の写真などで状況をフィードバックしているのですが、審査員のコメント等をかいつまんで入れるということはやっています。

○内山委員 もしやっていなかったらと思ったのですが、フィードバックを個別にやるのはすごく重要で、次の応募につながるとしますので、続けてほしいと思います。

こどもエコクラブももっとたくさんあると聞いていますので、一つ一つ声かけをしていくことで裾野が広がると思います。

○太田会長 アドバイスが2点ございましたので、よろしくお願いいたします。

○事務局（皆川企画担当係長） 我々も、発表校や引率の先生が固定化する傾向にあることについては、何とか改善を図っていきたいと思っていますので、いろいろなご意見をいただいて参考になりました。ありがとうございました。

具体策ということではないのですが、各学校が本当にいろいろな取り組みされていて、各委員の方からも自身のお子様を通っている学校でもこんな取り組みしているのだというお話をたくさん聞けて、すごくうれしかったです。

学校においては、興味深い様々な活動はしているのですけれども、それが発表に値する取り組みだと学校自身が思っていなかったり、環境コンテストについては、土曜日に引率することになるので、そこまでしてどんな効果があるのかと思っていたりすることと思い

ます。先生方の負担軽減の観点を考慮するとともに、取り組みの効果などについて私たちもうまく伝え切れていないところがあるのだと思います。

ところが、参加した学校からは、実際に子どもがあのような場で発表したこと自体がすごく大きな成長につながった、校種を越えて小学生が中学生、高校生の発表を見ること自体、非常に勉強になった、逆に高校生、中学生が小学生の発表を見ることによってすごく刺激を受けるところもあるので、そんな効果を何とか広げていけると良いと思っています。

そういったときに、具体策にはならないとは思いますが、先ほどお話しした札幌らしい特色ある学校教育の柱の一つが、「幼・小・中・高のつながりを意識する視点」ということで、併せて札幌市は小中一貫的な、一貫教育的な視点を大切にしていこうということからも、今、小学校と中学校の連携を密に図っているところですから、そういったところで情報共有して、校種を越えていろいろな発見があることで、取り組みに広がりが出てくるのかなと思います。

また、もう一つの柱の「発信」という意味で、子どもたち自身の言葉で、子どもたち自身が学びの成果を発信していくということによって、子ども自身も先生方ももっと価値を感じることができたり、発表することを通して地域の方とつながることができたり、そういう部分で広がりを持たせることが、長い目で見ると少し関係していきと思っているところがありますので、お伝えしておきたいと思いました。

本当にいろいろなご意見を聞けて、これから取り組みを考えるに当たって非常に参考になりました。

○太田会長 ありがとうございました。

先ほど江田委員からお話がありましたけれども、資料3に移りたいと思います。

事務局からよろしくお願いします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 来年度に開催する環境教育ワークショップの実施案についてご説明させていただきます。

資料3をご覧ください。

まず、ワークショップを実施する背景・目的ですが、環境問題の多くは、私たちが生活の便利さや、目先の都合を優先してきたことにより生じたものであり、その結果、さまざまな影響が地球レベルで起こっていて、身近な生活にもその影響が及んでいます。

将来、こうした影響は大きくなり、今の社会活動や豊かな生活が続けられなくなることが懸念されています。

そこで、次世代を担う子どもたちに、身近な環境問題を通して、持続可能な社会や生活について考えてもらうきっかけをつくってもらうため、ワークショップを実施したいと考えています。

次に、実施内容のイメージです。

対象は、市内の小学校4年生以上とし、小・中学生二、三十人程度を想定しております。参加した子どもたちには、このワークショップを通じて、自分たちの目線でSDGsにつ

いて考えて、身近な環境問題を題材に自分たちの生活を見つめ直してもらう機会にしても
らいたいと思っております。

また、高校生や大学生にも企画の段階から参加してもらい、子どもたちが考えやすい場
や雰囲気をつくり上げていきたいと思います。

そして、正解を求めるのではなく、参加者同士の自由なやりとりを通じまして、自分の
考えや視野の広がりを感じてもらえる場としたいと考えています。

次に、実施の流れについてです。

まずは、企画ですが、高校生や大学生が参加する企画ワークショップを3回程度開催し、
実施内容を検討していただきます。

ある程度実施内容が固まりましたら、参加者を募集します。

次に、ワークショップの実施となりますが、プログラムの例としては、午前中はゲーム
や意見交換を通してSDGsについて考えてもらいまして、午後には、プラスチックごみ、
クマとの共生、温暖化など、身近な環境問題をテーマに、自分の生活を見つめ直してもら
うような内容をイメージしております。

そして、実施後は、取組結果を学校等へのフィードバックするほか、次年度以降にも活
用できるプログラムとして検討していきたいと考えています。

環境教育ワークショップの実施案についての説明は以上です。

○太田会長 次年度の活動の説明でした。

ご意見、ご質問はございませんか。

○坂本委員 これは、小・中学生も高校生、大学生も全くランダムに公募して、集めるス
タイルですか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 小・中学生は、公募にしようと考えています。

高校生、大学生につきましては、また別に、若者向けといいますか、大人世代を対象と
したワークショップを開催する予定がありまして、その中で、子どもに対するプログラム
をつくることに興味のある方を募り、参加してもらいたいと考えております。

○坂本委員 ランダムに応募してくるような子どもたちも若者もいると思うのですがけれ
ども、学校単位とか、児童館とかエコクラブとか、そういうところを直接訪ねてお声かけを
することが必要ではないかと思います。

先ほど皆川係長がおっしゃっていたように、異年齢の集まりというのは子どもたちにと
ってすごく良いことだと思います。学校のカリキュラムの中だけでやるというのは本当に
限界があると思います。先生方のご負担も大きいと思うので、そこに地域やNPO的な環
境教育に関わる人たちに参加してもらうのが良いのではないかと思います。

大学生だったら、大学のサークルとかゼミなどの担当に相談するのが良いと思いますけ
れども、大学単位でもフェアトレードのイベントをやっているとか、子どもたち向けのゲ
ームをやるというところもあるので、そういうところをピンポイントに一本釣りでご相談
したら良いのではないかと思います。

○宮森委員 環境教育ワークショップとのことですが、環境学習のほうに参加しやすい感じがしましたので、ご検討ください。

また、ここに参加してくる高校生や大学生、特に大学生は、学生サポーター制度の対象になると思いますので、ぜひそれを周知するというか、まずはアンケートか何かでそういう制度を知っていますかということを聞くのもひとつのきっかけになると思いますので、ぜひ働きかけをしていただきたいと思います。

○太田会長 働きかけについてのご意見、ご要望が続いておりますが、ほかにございますか。

○内山委員 参加した子どもたちが何を持ち帰って、どう自分ごとにしていくのかというところが、分かりませんでした。これから企画の段階で明らかになっていくと思うのですが、午前中はアイスブレイクの的に打ち解けて、午後にはいろいろな議論をしてということになるのかと想像します。

一例ですが、KODOMO ラムサールという取り組みがありまして、全国から湿地を守っている地域の子どもたちが開催地に集まって、そのさまざまな宝探しをして、湿地保全のための宣言を作り上げます。それを1泊2日で取りまとめて発表するのですが、子どもたちはすごく充実感を持って、自分たちの地域に戻ったら、ここの地域の良いところを持って帰って役立てようとか、非常に主体的な気づきを持ち帰るプログラムなのです。

そうしなさいと言っているわけではないのですが、何となくそういう視点があったほうが良いと思います。見つめ直してもらって、どうするのだろうというところを大学生と高校生の人たちとぜひ話し合ってほしいと思いました。

○太田会長 ありがとうございます。

ほかにご要望等はございますか。

○野崎委員 私自身もぼやっとしているなと思って、果たして人が集まるのだろうかと思ってしまいました。では、自分だったらこれをどう成立させるかということ、参加する子どもたち、まず小学生をどう集めるかということ、先ほど坂本委員がおっしゃっていたように、サタデースクールに、今、いくつかの学校が取り組んでいるので、そういうところに働きかけてみたり、児童会館、児童クラブは持てあましたりすることも多いのです。学童保育、このあたりの子どもたちの午前中なり午後なりの時間を生かせば、ある程度の人数は確保できるのではないかと思います。

あとは、場所もありますね。例えば、チ・カ・ホを使ってみるとか、イベント的にまずは周知するとか、そういう仕掛けも大切なるのではないかと思います。

先ほど、皆川さんから話がありましたが、幼・保・小・中・高が地域で縦に一緒になっていたりというのは良いと思います。例えば、同じ地域にある高校生が中学生にワークショップをやって、高校生に対する憧れとか、でも、そういうのはなかなかすぐに集まらないので、授業の中にうまく組み込んでいただくとか、部活、クラブとのつながりをつくっていただくとか、何もしないで集まってくださいといっても、今、私の勤務校でも、子ども

たちはびっしり忙しいのです。土・日もスケジュールが入っていたりする中で、どうやって集めるかというところは少し試行錯誤しなければいけないと思いながら話を聞かせていただきました。

○太田会長 ほかにございますか。

○大沼副会長 どうやって集めるかということは、今、野崎委員と坂本委員におっしゃっていただいたので良いのですが、その中身について、内山委員もおっしゃっていただいたのですが、最後にならったら良いのだろうと考えたときに、恐らくSDGsという概念を理解することより、自分たちの生活を見つめ直して行動するというほうに力点があるのだろうなと行間を読みながら聞いていました。

もしそうだとするならば、実際のところ、持続可能性、サステナビリティというものは、大人で議論をしても、何なのかという話になってしまいます。しかし、その概念を理解することが目標ではなくて、本当に日常生活でできること、先ほどのエコライフレポートのときも、SDGsはいろいろあるけれどもという議論が出ていましたが、SDGsとは何なのかを理解するよりも、とにかく日常生活の身近なところで何ができるの、できないのというところの実践というか、行動というか、そこにつながるもののほうが大事なだろうと聞いていました。

もしそうだとしたならば、もし可能ならば、1日で終わらないで、半日かけて、ちょっと間を置いて2回というほうが良いだろうと思いました。

というのは、最初の日、あんなことをやろう、こんなことをやろうとなって、大体、ワークショップは、それをやったときだけは良いのだけれども、家に帰ると、また元に戻ってしまうのです。ですから、家に帰って、また元に戻ってしまっ、しばらく1週間とか間を置いてまた来たときに、この1週間の間に何ができただのか、何ができなかったのか、なぜできなかったのだろうくらいのところまで振り返られると、おそらく、生活を見つめ直す、実際の行動に結びつけるというところに、もしそちらが本当の狙いであるならば効果的だろうと思いました。

○太田会長 これについて、いろいろな角度からご助言いただきました。

私からも一言申し上げたいと思います。

5月から企画が始まるということです。新型コロナ対策といいますか、これはみんなが集まって密接に話し合うようなスタイルかと思いますので、別な想定も含めて考慮されたほうが良いのかもしれないと思いました。

内容については各委員から意見が出されましたが、私は、たくさん集まるのではないかなと思うのです。本当におもしろい企画になるのではないかと期待しています。

それでは、会議全体を通してご意見はありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○太田会長 それでは、本日は今任期最後の会議ですので、お集りの委員さん全員から、環境教育、環境学習について、感想や今後に期待することなどをお聞かせいただければと

思います。

○大沼副会長 環境教育・環境学習基本方針推進委員会をお務めさせていただいて、私自身、学ぶところが非常に多かったですし、先ほどご紹介いただいたさっぽろこども環境コンテストでは、最近、歳のせいと言うとまだそんな歳ではないと怒られそうですが、子どもたちがすごく一生懸命やっているのを見ると、それだけで涙が出てきちゃうようなことがあります、そういう場にいられること、そういう機会をいただいたことに非常に感謝しております。

その一方で、なかなかできないことが多いなと思います。最初もできないことをたくさん話して、もどかしいところもたくさんあるのですが、もどかしい思いを共有できている人たちがここにいるのだということも心強く思いつつ、この委員会に参加させていただきました。

なかなか良い答えを出せず、そういう意味では力不足については申し訳ないと思う一方、みんなで同じ方向に向かっていこうということで、一つ一つ、一歩でも前に進んだら良いと思っています。

どうもありがとうございました。

○小路委員 環境教育・環境学習基本方針推進委員会に所属して、この前身から考えると12年目になるかもしれません。非常に長く関わらせていただいて、いろいろな環境教育・環境学習の変遷を見ることができたことは、私にとって非常に有意義だったと思います。

中学生というのは、意識しないで環境への取り組みを結構やっているのです。しかし、それを意識していないから、自分では、環境に対するアプローチが分かっていないのです。ですから、そこを認知させてあげることはものすごく大きいのかなと感じています。そういう意味で、学校の現場がそういったことを示唆してやれる非常に良い場だと思います。今、いろいろなところに派生していますが、それぞれがそれぞれできるところで子どもたち、または大人の集団に認知させていくことはものすごく大事だと思っています。

私は今年で退職になりますけれども、新しいところでもまたいろいろ認知を進めていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

○隅田委員 私は、公募委員として参加させていただいて、札幌市の方をはじめ、会議に集まってきていらっしゃる先生方や、環境に対する実践者がすごくたくさんの努力をされているのだなと思いました。また、毎回の資料を見ても、すごくいろいろなことに骨を折っておられるのだなということがよく分かりました。

私も、一市民として、親として家族の中を振り返ってみると、このご苦労がどれだけ生かしているのかということをしみじみ感じていました。

新しい基本方針に目指す将来像が書いてありますが、市民が持続可能な都市とは何かについて理解していて、札幌の環境の良さを実感していて、自ら環境を改善する行動を選択していて、周りの人たちにも良い影響を与えていて、環境配慮行動を認識するためのチャ

ンスがたくさん準備されている、こういう状態が10年後にぜひ実現して欲しいと思っています。

○坂本委員 いろいろとお世話になりました。

小路先生が、中学生は環境教育なんてことを特に意識せずに、環境アクションをいろいろとやっているとおっしゃって、これは何かの特典になるからとか、しなければいけないからとか、そういうことではなく、自然に行動に身についているというのはそうだと思うので、それが学校教育の効果なのだと伺って、すばらしいと思いました。

一方で、学校現場は、昨今、いろいろと厳しいプレッシャーもあろうかと思しますので、先ほども申し上げましたけれども、そこを地域とか、いろいろな社会教育分野の市民団体と一緒にやれたら良いのではないかと考えています。

私たちのところも拠点なので、札幌から来る子はそんなに多くないですけども、児童館とか保育園、また、最近はフリースクールに子どもたちが来ます。先ほど保育園のお話がありましたけれども、園庭があっても、ご近所から静かにしてほしいと言われて園庭を使えなという事情もあるのだそうです。私が関係している保育園では、一緒にサケが上るのを見て、サケを買ってきて、子どもが1人ずつサケを抱いて、先生がさばいて食べるということを年に2回やったりするのですが、札幌は、ちょっと外に出れば本物の自然もあるところなので、海でも山でも出られます。そのときのバスがどうか自動車がどうかという課題もありますけれども、そこを一緒に協力しながらやれたら良いなと思っていますので、何かありましたら、ぜひ協力させてください。どうぞよろしくお願いいたします。

○宮森委員 私も、2回の基本方針の検討に参加させていただいたことに感謝いたします。

新しい基本方針の中には、環境学習という言葉が入りまして、より内容も身近になった印象を受けます。学校の授業の中で取り組むことが非常に重要だと思いますので、今後の成果に大いに期待したいと思います。

長い間、ありがとうございました。

○西塚委員 民間事業者の立場で、末席を汚す思いで毎回参加をさせていただいております。

会議を通じて、子どもたち向け、それから、教員の皆様向け、一般の市民の皆様向けと、環境について実践的に学べるメニューが豊富にあって、これらを考えるに当たっては、多くの関係者や有識者の方が知恵を絞りつくられていることについて純粋に感動しました。それと同時に、微力ですが、当社、また、民間企業全体としてもまだまだやる必要があるということを改めて感じているところです。

また、先生方と接する機会も時々ありますが、皆さんがおっしゃられているように、教育現場は忙しく大変で、学習指導要領に基づかないものを授業に採用するかは先生方の意思次第ということを知ります。でも、そういう意思の高い先生が多くいる中で、我々としても情報提供などさせていただいておりますが、先生方の活動の芽が少しずつ根づきつつあることを実感しております。更に根づかせていくために、いろいろな仕組みづくりなど

の大切さをこの1年、2年で感じたところです。

また今後について、様々な次世代環境教育の活動自体をもっと広く皆様に知っていただくという意味で、広報の強化というところも大切だと改めて認識しました。

本当にありがとうございました。

○内山委員 何年かにわたっていろいろとリクエストしたことによって、事務局の方に、環境局という枠を飛び越えて全庁的な取り組みを調べていただき、非常に感謝しております。

本日も、環境教育の取り組みが特定の学校等に固定化しているという話が出ましたけれども、裾野を広げるためには、その担い手をもっと広げていく必要があると思っております。学校の先生が本当に忙しいのは分かっていますので、例えばNPOとか、コンテストで旭山自然調査隊さんが表彰されていましたが、この分野を担ってもらえる団体を増やしていくことが必要かと思います。

そのためには資金が必要ですが、例えば、札幌市にはさぼーとほっと基金という非常に良い制度がありますので、テーマ性を持たせるとか、新たな視点もどんどん取り入れていくと良いのではないかと思います。

最後に、ガイドのほうには基本理念でいろいろ書いてありますが、行動できるということまでまだ距離があると思います。というのは、気候変動の関係で、ヨーロッパで高校生を中心としたデモがたくさん起きていましたが、日本、札幌でどうだったのかというふうに考えると、数名でもパルコの前に集まっていただけで良かったと思いますけれども、もっと主張できる子どもたちがたくさん育っていくことが必要かなと思っていて、我々の目指すところはそこかなと思います。

ありがとうございました。

○江田委員 公募委員に応募させていただいた江田です。

私は、何期か務めさせていただいたのですが、その間にも、日本だけではなく、世界各国でいろいろな自然災害、環境破壊があり、日本でも大きな台風による水害がいくつかありました。私は、そういったことがある中でこの立場につかせていただいて、本当に力不足も感じながら、環境に関わっているさまざまな方々とこの問題について真剣に取り組むことができたことに、本当に感謝しています。

今、コロナウイルスが世界各国ではやっています。人類史上初ぐらいの、誰も解決策をまだ見出すことができていない問題ですが、私たちが取り組んでいる環境問題についても、全人類で取り組まなければいけない課題ではないかと思います。コロナと同じ問題ではないのですが、改めてそう感じました。

私がこれで任期が終わっても、目指す将来像にあるように、自ら環境を改善する行動ができる札幌市民という立場で環境の改善に携わっていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

○野崎委員 お世話になりました。

先ほどご挨拶の中にもあったのですが、学校の先生は大変だ、忙しいと。いろいろなことがあるのですが、僕自身は、ここに来ると、すごく励ましてもらっているように思っていたのです。

なぜかという、教育に対する期待や願いを異業種の方もたくさんいる中でダイレクトに聞けるという場として僕は捉えていました。授業を頑張らなければいけないとか、うちの先生たちはこういう思いがあるから、本を使ってやろうよとか、そういうことができたのは一つ大きな収穫だと思います。

先生の仕事は良い仕事です。きのうは卒業式でしたけれども、やはり感動もありますし、勉強を教えるということが一番大切なのですが、それ以外にもいろいろなつながりができるのです。そういうようなところがある素敵な仕事です。

環境教育を窓口として、ここで皆さんと語られたことをすごく楽しく思いました。

ありがとうございました。

○増淵委員 この会には、経験が非常に浅いながら、短い期間でしたが、出席させていただいて、とても勉強させていただきました。どうもありがとうございました。

先ほど保育所のことについてお尋ねしたのは、小学校に入る前の本当に幼い子どもたちが豊かな自然環境に接して、その中で自然環境の良さを実感していくということはすごく重要だと思ひまして、どのようにされているのかなと思ひました。

ただ、お聞きしているうちに思ったことは、いろいろな保育所があつて、参加できる場所はある意味で豊かな保育所なのかなと思ひたのです。ですから、そうではない子どもたちも経験していけるような取り組みを行政として用意できるのがこの良さではないかと思ひました。

もちろん、そこがどんな場所にあるとか、いろいろな条件が関わってくると思ひますが、バスも使えるということですし、今まで自然環境にあまり接したことがない子どもたちにも豊かな経験をさせることができる取り組みが進んでいけば良いなと本当に強く思ひました。

どうもありがとうございました。

○太田会長 皆さん、ありがとうございました。

2年間、皆様のご協力により務めを終えることになると思ひております。議論を深めたり、広げたりというところまで行けなかったのではないかと反省しておりますが、皆さんそれぞれの職場、ご家庭、地域で、広げて、深めていただければ幸ひかと思ひております。

本当にありがとうございました。

本日の議事は全て終了いたしました。

それでは、事務局からの連絡事項をよろしくお願ひいたします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 事務局からご連絡をさせていただきます。

本委員会の委員は2年間の任期となつておりまして、本年4月16日をもちまして今任期が終了となります。

委員の皆様には、毎回、ご熱心にご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。充実した委員会となりましたことに改めて感謝を申し上げます。

また、今期をもちまして、小路委員、江田委員、隅田委員、宮森委員の4名がご退任される予定となっております。長きにわたって委員会にお力添えをいただきまして、本当にありがとうございました。

3. 閉 会

○太田会長 本日、皆様には、大変な中お集まりいただきましてことに改めて感謝を申し上げます。

これをもちまして、令和元年度第2回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を終了させていただきます。

本日は、長時間にわたり、また、お忙しい中をご出席いただきまして、本当にありがとうございました。

以 上